

2年次前期・必修

1単位・15時間

【概要・目的】

現在、世界に類を見ない速度で少子・高齢化が進んでいる我が国において、社会福祉の重要性は増大している。特に、急増する高齢者の介護の分野においては、その理念や制度のあり方を根本から問い直す、大きな転換期を迎えている。

本講義では、社会福祉を支える制度や理論を学ぶとともに、社会福祉の各分野における先駆的な実践事例を紹介する。

机上の論理にとどまらず、講義やグループワークを通じて、社会福祉活動を行う上で必要な力を身につけることを目標とする。

【到達目標】

- 1) 社会福祉の形成されてきた歴史やそのシステムを理解し、他者に説明することができる。
 - 2) 社会福祉の現状とその課題、また今後のあり方について、自分の意見を持ち、論じることができる。
-

【内容・スケジュール】

- 1) オリエンテーション
 - 2) 我が国の社会福祉を取り巻く状況
 - 3) パーソンセンタードケア—認知症ケアの「古い文化」と「新しい文化」
 - 4) 社会福祉の新しい潮流—小規模多機能ケアと共生ケア
 - 5) 尊厳ある死を迎えるということ—終末期医療
 - 6) ボランティアと社会福祉—実践的ボランティア論
 - 7) スウェーデンの社会福祉とノーマライゼーション
 - 8) まとめ—これからの社会福祉のあり方
-

【評価】

期末レポート（80%）、出席状況および参加態度など（20%）

【教科書】

必要に応じてプリントを配布する。

【推薦参考図書】

大熊由紀子 『「寝たきり老人」のいる国いない国』 ぶどう社 1990年

トム・キットウッド 『認知症のパーソンセンタードケア』 筒井書房 2017年

【その他】 連絡先：tsukasa@olympia.or.jp